

桜花は下半身が引っ張られる感覚で目を覚ます。

原因は股に繋がっている巨大なモノ。

それが前方へと大きく飛び出している。

上半身にはどっしりとした重石がついているので安定は揺るがない。



桜花は寝ぼけた意識を覚醒させていく。
だが、状況を知ろうにも自身の周りは肌色一色。
巨大過ぎる肉の柱と壁が彼女を覆っている。

その障害物となぜか感覚が繋がっている。
そこから桜花がその巨大障害物が自身の乳房と
ペニスだと認識するのに時間はかからなかった。

「……………」

まさに絶句。

……これはいくらなんでも度が過ぎる。
童居区内ですら埒外と感じさせるデタラメボディ。
桜花の意識は逆戻り再び真っ白になる。

（……………、こんなのいったいどうしたらっ……………！）

状況も体も桜花は持て余すしかない。

「おはよう」ございます。

桜花様♪

待ちに待っていましたよ！」

桜花は反射的に歓喜の音がする方へ目を向ける。
そこには桜花とは違う路線の超巨大な肌色の塊があった。



桜花と比べるとかなり控えめだが超乳と呼ぶに充分なおっぱい。
桜花からしてもさすがに長過ぎではと感想を抱くとんでもない長根。
誰もが啞然とするだろう小山のような超ドデカキンタマ。

桜花は一瞬にして安堵していた。
デタラメなのは自分だけではなかったと…。

「桜花様によって生まれた精液は桜花様へと返すのが礼儀。

目覚めるまで溜まりに溜まってタマタマが山のように膨らんじやい
ましたあ♪ 量は言わずとも。濃度も相当なものになってますから
ご期待くださいね♪

ちなみに普段はタマの方に茎が大きく埋没してるので勃起すると
極端に長くなるんですよね。」

太さ硬さはないが異様なまでに長いペニス。

「長根」と呼ばれるそれはタマツキのようにふたなりの代表的な
特徴の一つだ。

「桜花様のおかげで伊緒奈お姉様の本気タマタマによる
タマズリが堪能できて感激ですよお♪

伊緒奈お姉様ファンクラブの一人。

小見 真里菜 と言いまあゝす。

今回はサ・ポ・トで参加させていただきますのでよろしく
どぞです。」

伊緒奈レベルの規格外にもなると性交時に補佐する者が必要
となる。そのため、サ・ポ・トをこなせるファンの集いというモノ
が自然とできあがっていく。

真里菜はファンクラブの中でも伊緒奈期待の少女。
マッスルタイプなので自身の巨大なモノを物ともせず単独でも
サ・ポ・トが務まる。



「ようやく主役がお目覚めたね。
あたしは五条カレンだ。」

今回は力仕事を頼まれた報酬で
参加させてもらうからよろしく。」

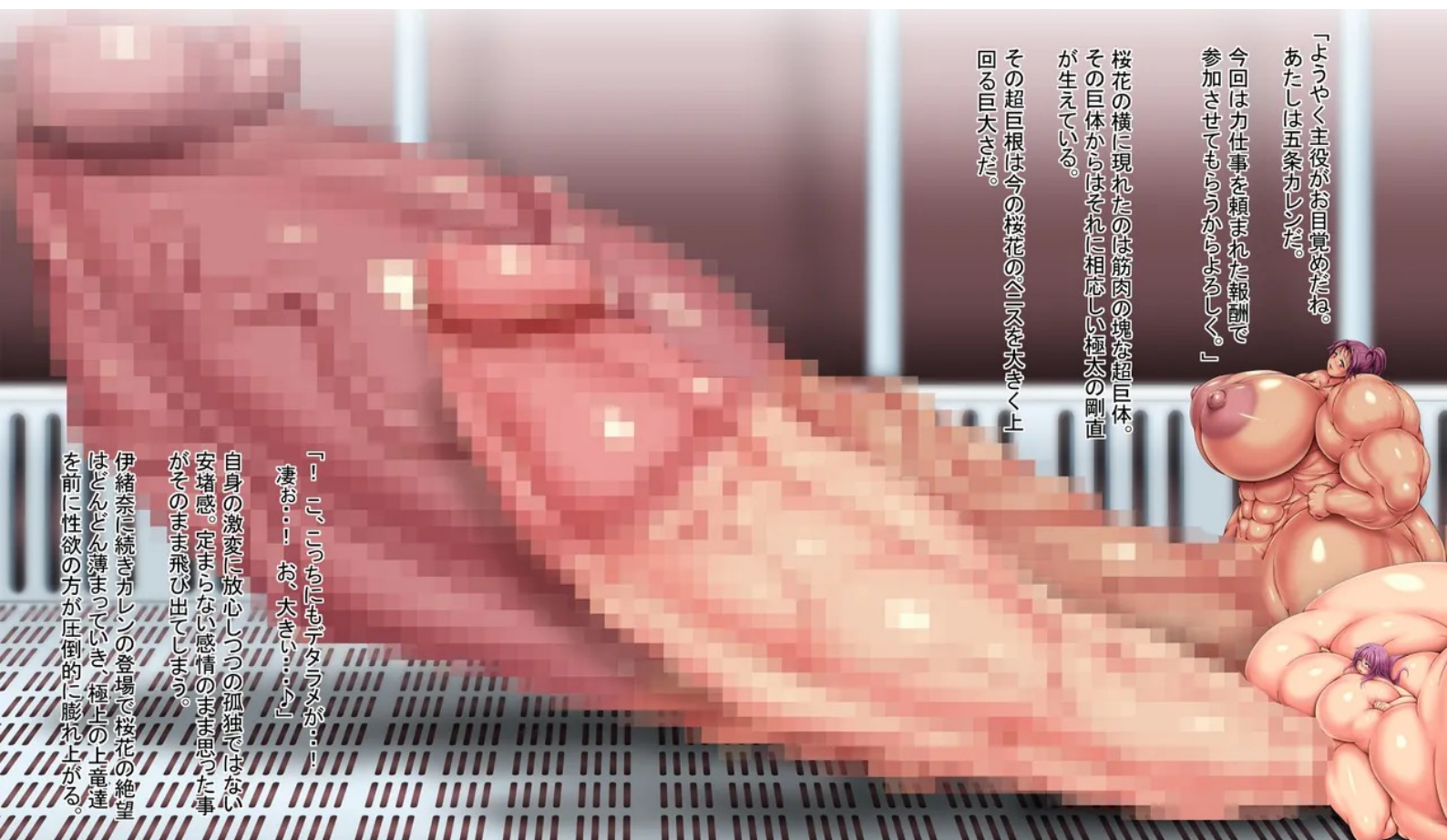
桜花の横に現れたのは筋肉の塊な超巨体。
その巨体からはそれに相応しい極太の剛直
が生えている。

その超巨根は今の桜花のペニスを大きく上
回る巨大さだ。

「！」「こっちにもデタラメが……！
凄お……！ お、大きい……！」

自身の激変に放心しつつの孤独ではない
安堵感。定まらない感情のまま思った事
がそのまま飛び出てしまう。

伊緒奈に続きカレンの登場で桜花の絶望
はどんどん薄まっていき、極上の上竜達
を前に性欲の方が圧倒的に膨れ上がる。



「不動の姐さんにそう言われるとは光栄だね。」

あたしのようなマッスルタイプは初手で最大勃起できるからね。現時点では姐さんよりデカいしデカタマのせいで薄く見えるが姐さんの方が断然極上さ。」

平均・最大勃起
長さ836cm
太さ302cm

桜花は言われて気づく。
6m近くまで巨大に勃起しているはずの自身のペニス。それなのに桜花の中には疑いようのない思いがある。

(…だ、だってこれ…。
こんなの勃起した内に入らない。)

あまりに巨大過ぎるペニスは勃起しきるのに多大な刺激と時間が必要となる。

段階的に激しく巨大化していく多段階勃起。

苗音との性交時の成長でさらに段階が増加している可能性は充分あるが、少なくともあと2回は巨大化する。
それなのにすでにこのデカさ！

『それじゃまず是不動の姐さんをそれなりに勃たせないと始まらないね。
正直もう我慢も限界だ…!!
約束通り、初手は貰うよ。伊緒奈嬢。』



カレンは桜花の後ろに回り込み
ペニスの先端を滑り込ませていく。

「チ、チンポだけでこのデタラメな
体が持ち上がってえ……!」

極太で強靱なそれは桜花の超乳をかきわけ桜花の本体をその太さの分だけ
持ち上げる。桜花の超乳が適度な重石となるのを見越してカレンの超巨根は
跳ね上がりを加えながら桜花の股下をぐいぐい進んでいく。



「ああああんっ……！」

（このチンポおメチャクチャ硬あつ……!!
それに火傷しそうな程熱くてえ……!!）

充分な休息と発情対象を得て、自身の数倍はある性器
から万全な性欲と精力が溢れ出す。



射精直前のようなはち切れ寸前な剛直が何度も桜花を擦り興奮させていく。
カレンのペニスはこれが通常。常時凄まじい硬さと熱さを持つ。

そんなペニスを操るカレンの肉体も強靱かつ怪力なため、自身の巨大ペニスと
巨大タマタマは枷になるどころ自在に振り回せる凶器となる。

桜花の体がまた一瞬カレンのペニスに跳ね上げられる。

『このパイズリされた感触からするに……。
姐さんは間違いなくタマチチだねえ。
ならあ……！』

カレンはその怪力で桜花の超乳を抱え込みながらペニスを通しきる
のも狙って前方へとダイブする。



「ちよっ……ダメえ……!!
あああああああああああつ!!」

3m近い身長で肉厚過ぎる筋肉の塊。
その超重の巨体が桜花の超乳に押し掛かりそれを押し潰す。
それらの荷重を受けてもカレンのペニスはビクともしない。
それどころかカレンはこの状態でもペニスを持ち上げていく。

「あああああんっ!!
あたしにはパイプリ、姐さんにはおっぱい万力圧搾。
あたしと姐さんだからこそそのプレイだねえ!!」

下からは熱した金属だと過言ではない最大直径3m超えの
極太が持ち上がってきて、上からは超重巨体と怪力で押し
込まれる。挟まれた桜花の超乳は無様に薄く押し広げら
れ、中の精巣がゴリゴリと刺激されていく。

「もおイツクウウ~~~~ツツツ！」

ひいあああああああああああつ!!

おっぱい揉みくちやされてえ精液出ちゃうのおおお
ほおおおおおあああああつ!!」

「あたしもこのまま姐さんのおっぱいで
イかせてもらうよ!!

このレベルのタマチチだとおっぱいとタマ
の良いと「取りで気持ち良過ぎるう……!!
おおおおおおおおおつ」

カレンの動きがどんどん激しくなる。

挟まれている桜花っぱいもどんどん擦りおろされる。

「ダ：ダメエ……!! ああああああつ!!

イってるのにまたイっちゃううううつ!!

精液いどんどん出ちゃうよおおおつ!!」

当然のように桜花は重複射精し、放出する精液の量
が増加していく。

ツク



だが精液量は右上がりの大量。
射精は滝のようになってカレンの強靱
巨根に降り注ぐ。それでもカレンのペ
ニスは揺るがない。

ペニスがまだまだ本来の硬さではない
桜花の射精は飛ばない。



「ああああああああああああんっ！
いっぱい出るうっ！どんどん出るうっ！
でもお、もつと出さないとお全然治まらないのおっ！
ああああああああっ！ イックウーッ！」

「ああああああああああっ！
あたしもおイックウウッ！
姐さんのドデカタマチチでイックウウウッ！
おおおおおおおっああああああっ！」

ウマ



「タマや〜〜〜
相変わらず飛ぶわね〜。
あの飛距離は私でもマネできないわ。」

伊緒奈は体を上下させながら桜花とカレンの性交を見守る。
オカズ対象が強化されたことで伊緒奈の精液生産がまた活発
になってきて、タマの脈動に本体がつかれている。



「あああつ。さすがに溢れちゃうっ♪」

あまりの精液量に達してなくとも鈴口から精液が次々と漏れ出ていく。射精量が多すぎて好き勝手に放出できない伊緒奈にとって我慢は日常的なものだがここまで興奮してお預けは久しぶり。

溜め込み過ぎてゲル化した濃厚精液の漏れ出しが止まらない。

「お姉様の精液とんでもない濃さになってますう。今日のタマズリが一味違うのはこの精液がみつちり詰まってるからなんですわ。お姉様をこんなにするなんて不動様もヤバイですう。」

タマズリフェチの真里菜の視線が桜花のおっぱいに向く。

（あの射精量からして不動様はタマチチだよわ。お姉様のドデカタママに加えて予想外のドデカタマチチだなんて。ヤバいくらいに興奮してきたあ——）



真里菜のタマが膨れていく。
サポートのご褒美で伊緒奈のタマズリを堪能し射精しまくっていた
ため通常の最小サイズだったがここにきて生産力が興奮で上昇する。
伊緒奈・カレンは極上桜花をオカズにぎゅちりと溜め込んでいたので
最大級まで膨れ上がっている状態だ。

「ここからは真里菜ちゃんも桜花様用に精液はチャージングね。」



「りよです。お姉様あ。あああああんっ！
濃厚ゲル精液が流動しまくってタマズリヤバあいんっ！
あああああああつ！もおいつちゃうっうっ……！」

生産力の上がつている真里菜はすぐに絶頂する。
だが、射精はしない。放出を堪えて精液をタマツキ特有器官「精倉」
へと溜め込んでいく。真里菜のタマは急激に巨大化していく。

「カレンさんも盛りまくってるわね。
爆射度がどんどん増していったらう。
あはあ。　　というか飛び過ぎ♪」

カレンも桜花も射精し始めてから一度も途切れていない。
互いに興奮を引きずり出させ絶頂させ合い、何度も重複射精を
繰り返している。二人の驚異的な精液生産力があってこそそのノン
ストップ爆射。



「あああああああああひいあああつ！
精液出っ放しい気持ちいいよおおおっ！
それに射精するほどチンポみちみちして
くるのおおほおおおおっ！」

桜花の性能からすればこの程度は序の口。

茜音との性交で絶頂経験値を大量に獲得
し耐性が大幅に上昇。このノンストップ射精
を楽しむ余裕が今の桜花にはある。

「あああつ！ああああああんつ！
姐さんのおっぱいい良過ぎるうううっ！
おほおっ！ またあックウウウッ！
あああああああああああああつ！」

カレンはひたすらに桜花のタマチチを犯す。
パイズリとタマズリを同時に受けているような
桜花クラスのタマチチならでは超絶ズリ抜き。

発情しまくったカレンの精液生産は振り切れて
大量に射精し続けているのに最大膨張したタマ
がまるで萎まない。

「またああああイックウウウッッッッッッッッ！」

そして、桜花とカレンの体に衝撃が突き抜ける。



それは一気に巨大に勃起した桜花
へええからの膨張衝撃。

「…えっ…あ…ほおああ？」

快感に吞まれていた意識が素に戻り変な声が
漏れ出るほどにそれは衝撃的だった。

もちろんその巨大さもそうだが、何より桜花の
中で衝撃なのが…。

（ちよっ…さすがにおかしい…！）

だってこれ…こんなにデカいの…まだ勃起し
きってる感がない…！

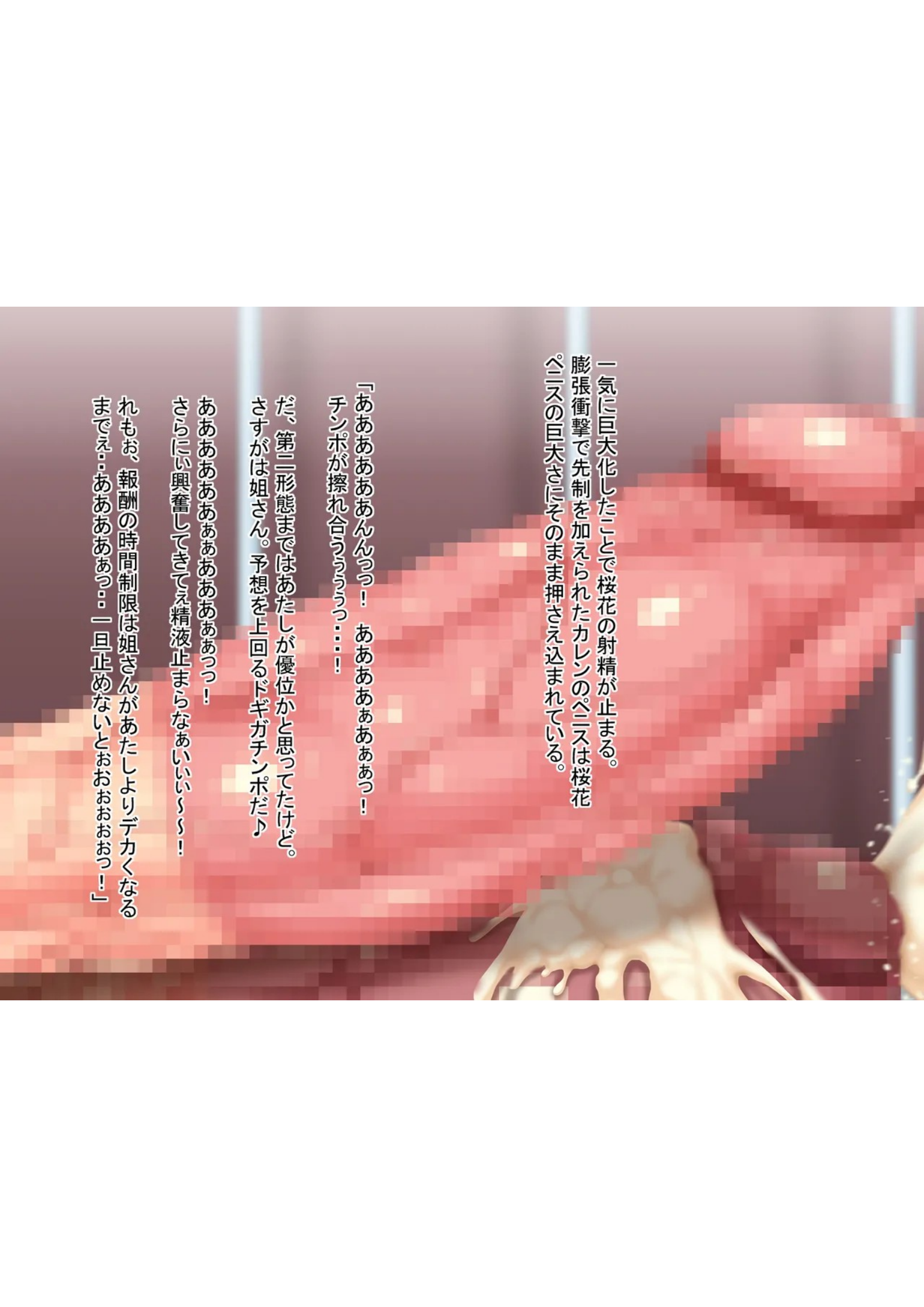
えっ？ この状態からあと2段階は勃起するって

こと？ いやいやまさか…！

だってもうこのカレシって人より大きくなってる
のよ。いくらなんでも埒外過ぎでしょっ！

茜音との終盤では意識が完全にトんでいたため
自身がどれほどのサイズまで勃起したのかまる
で記憶にない。





一気に巨大化したことで桜花の射精が止まる。
膨張衝撃で先制を加えられたカレンのペニスは桜花
ペニスの巨大さにそのまま押さえ込まれている。

「ああああああんっっ！ あああああああっっ！
チンポが擦れ合うっっっっ……！」

だ、第二形態まではあたしが優位かと思ってたけど。
さすがは姐さん。予想を上回るドギガチンポだ♪

ああああああああああああっっ！
さらに興奮してきてえ精液止まらなあいっっ！

れもお、報酬の時間制限は姐さんがあたしよりデカくなる
までえ……あああああっっ！一旦止めないとおとおおっっ！」

カレンはチャージングなどで培ってきた自力射禁の技術を総動員して射精を抑え込む。さすがにまだまだ溜め込み充分で興奮状態のフルバースト射精を中断させるのはかなりきつい。

カレンのタマは張りつめ、管内部にはぎつしりと精液が詰まったままに放出だけは強制停止させている。

そのガタイと筋力のためサポート役をこなすことが多い彼女は約束を反故にすることは避ける。多少力不足でも代わりになれる者は次から次へと出てくるのだから。

「ふうーふうー…… ふう…… ちよつと落ち着いたかな……」

正直このまま姐さんのタマチチに挟まれながらあたしより数段デカくなった超巨根にすり潰されてみたかったけどね。」

カレンは本当に残念そうな表情で全身プレスを止めてはち切れそうな自身の巨タマに乗りかえる。

グキッ
グキッ

タマチチ潰しによる圧搾から解放された桜花は物足りなさ
と事態の確認のため振り返る。そこには桜花の埒外巨根に
魅了され尽くしたカレンの顔があつた。

もう私はここでしか生きていけなあ

「ひいひいひいひいほおおおおおおおつ！
ぢよっ……そ、そこお、によ……尿道うおおおつ！」

油断大敵。

もの思いに耽っていた桜花は快感に引き戻される。

容赦なくカレンの剛腕が桜花の尿道にめり込んでいく。
飛び出し気味の子宮は潰れ、尿道と膀胱が大木のような腕に押し拡げられていく。

「経験はまだまだ浅いからと聞いていたけど杞憂だね。
地力の性能だけで申し分ない。さすがは姐さん♪

そして、これが最後の依頼。

貫通尿道フック用に思いつきり拡張させてもらうよ！」

片手で具合を確かめたカレンはさらにもう片手も突っ込む。

カレンは怪力任せに桜花の尿道を拡げていく。
並の肉体では負荷があり過ぎる行為だが桜花の性能
なら余裕なこととでこれもただの快感に過ぎない。

「ああああああああああんっ！

そ、そんな拡げたらあ中身が見えちゃうううっ！

ああああああああああああつほおおおっ！」

桜花本人にとっては充分な異常事態だが体はひたすらに快感
を受け取っているので桜花の中は盛大に混乱中。だからこそ
なすがままに快楽に翻弄される。

（「、こんなので気持ちよくなっちゃいけないのに気持ちいいの
おおおおおほおおおおっ！ああああああああああつ♪
らめえ！私い手遅れええええ！色んな意味で手遅れええつ！
ああああああああああつ♪気持ちいいいいいいいっ♪」

「あひいほおおおおあああああああああつ！
ぢよっ・お、おっぱいまで入ってきへえほおおおつ！
らめほおおおおあああああつほおおおつ！
こによ態勢らめなのおほおおおおおおつ！
あひいほおつ！ 勝手にいめり込むうううっつ！」

拡張を続けながらカレンはタマへの腰掛状態から床へと降りていく。桜花も軽く引つ張られて斜めになり自動でカレンの上半身をどんどん呑み込んでいく。

「このまま少し移動しますよ。姐さん。」

カレンは下半身とペニスの根本に力を入れる。すると桜花の巨肉がわずかに持ち上がる。

「カレンさんが位置を調整し始めてくれているわね。

「こつちもそろそろ装填の準備を始めましょうか。
それじゃよろしくね。真里菜ちゃん。」

「りよです。伊緒奈お姉様。」

真里菜は伊緒奈のタマ間から
自身のペニスを引き抜いていく。



ずるりと出てきた真里菜のペニスは巨大。
桜花やカレンのせいで可愛らしく見える
が上竜の中でも充分に巨根に類する。

それに加え巨タマと超乳という、さすが
は伊緒奈期待の逸材。期待というからに
はまだまだ成長真っ盛りで、日に日に色
々と巨大化している。



平均勃起
長さ506cm
太さ172cm

「それじゃいつきまあゝゝす!」

真里菜は伊緒奈と同じ向きに直ると彼女の長根をつかみ上げて抱え、そして、盛大に振り回す。それはロープをかけようとする時によく見る動作。

柔らかく伸縮性に富んだ長根は精液を漏れ撒き散らしながら遠心力で伸びている。

「とおりやりやゝゝ。」

可愛らしい声と顔とは不釣り合いな筋肉ボディから長根が凄まじい勢いで投擲される。



ブン投げられた伊緒奈の長根は真里菜の
剛直に接触しぐるりと巻き付く。

これは柔らかすぎる長根をぶち込むため
の方法の一つ。この状態のまま真里菜が
まとめて挿入する。

（お姉様の精液量、いつにも増してヤバいかも。
漏れ出ただけでこの量とかヤバ過ぎでしょ。

こんな状態のお姉様を装填することになる
不動様は大変なことになりそお・♪）





カレンは怪力と強靱なペニスを使ってデタラメ
ボディをスムーズに移動させていく。

「あひやふうっ！ さ、さすがに強引射禁直後で
姐さんの移動はきつい……！！
あああああああああああつ！
おおおおおおおぐうおおおおおつ！」

移動中何度も射精を堪えるカレン。
常時極限ガチガチのペニスが制御を失って何度も跳ね上がる。
当然、桜花のペニスも擦られながら跳ね上がる。

「あひやあああああああああああつ！
気持ちよくなつてるところにオチンポこすこすしたらあ出ちゃうっ！
チンポぶつとくなつたかりやあさつきよりいっぱい込み上げてくりゅう
うううううおほおおおおおおおおおおおおおつ♪」

目的位置まで到達するとカレンは極太ペニスを桜花の下から引き抜いていく。

あくまで最大3mmの極太。
先端と根本付近などは比較的まだ細い。
桜花はゆるやかに着地する。

「あああああああああああああああああああああつ!!
出る出る出るううっ!! どんどん出ちやうううっ!!
ついでにミルクも出ちやううっ!!」

桜花のペニスは長いだけでなく相当に太い。
多段勃起が進むほどに通す精液量は増えて射精快感が跳ね
上がっていく。そこに噴乳も加わり、あつという間に桜花は
再度快感の渦に吞まれる。

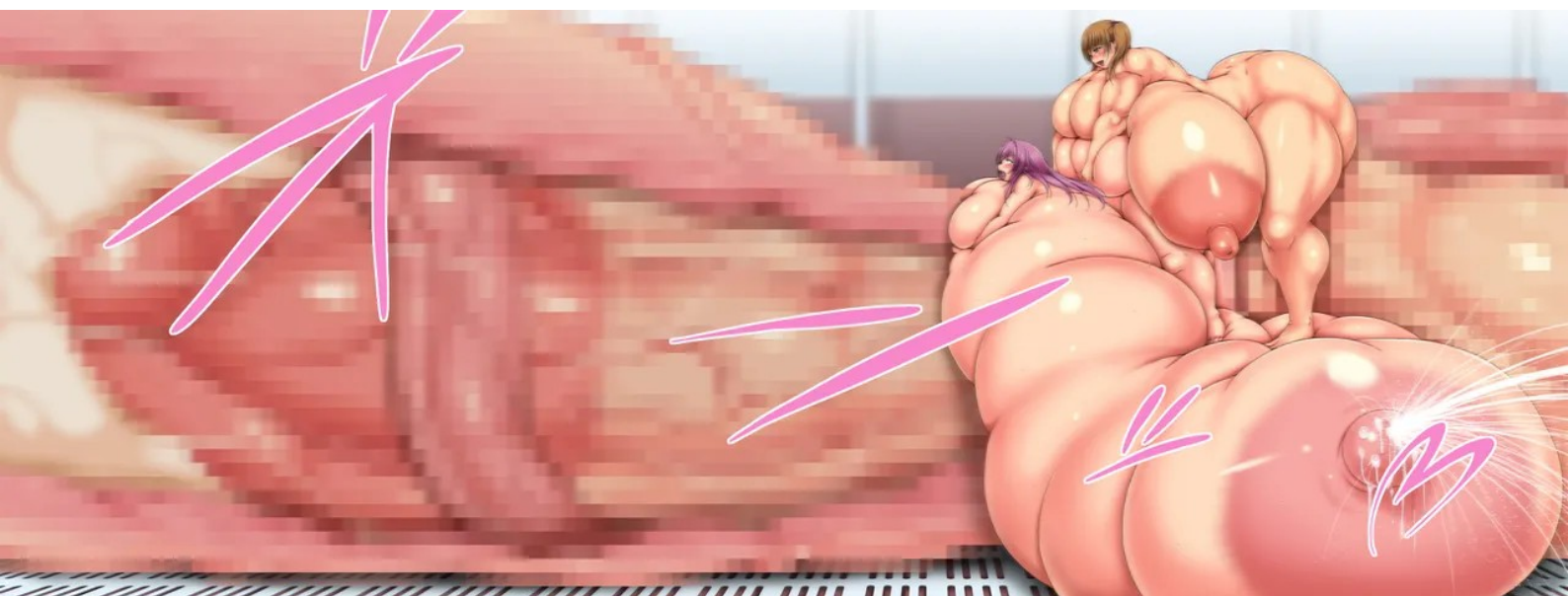


カレンは真里菜に譲る。

伊緒奈長根を装備した真里菜剛直が狙うのは
もちろん拡張された尿道。

自身の液の放出に気を取られている桜花はあっさりと
挿入を許してしまう。
そして、その「性」能ゆえに真里菜の超巨根は伊緒奈の
長根諸共根本まで一気に入り込んでいく。





「ああああああっ！
これが不動様の中……！
精液熱ついですが……」

桜花は「」が起ったのか理解が追いつかなかった。
到底根本まで挿入できるはずもないだろう真里菜
の超巨根がずっほりと桜花の体に入っている。

「おほおふう……！ あひやほおおっ？
ど、どうやってえほおおおおおおおっ！
あひほおおおおおおあああほおっ」

理解ができない未体験はいすばイス。
猛烈な快感に桜花の戸惑いは一瞬で吹っ飛び、吞ま
れるままにイキまくる。

これは圧倒的な極太に許された貫通尿道ファック。
太過ぎるゆえに膀胱経由で両尿道をまとめて犯さ
れることができる。

そして、挿入した方の射精がされた方の射精にも
なるため、『装填射精』とも呼ばれる。

自身より遥かに大量に射精するタマツキなんかを
装填しようものなら無限最大放出絶頂を味わう
ことになる。



「ついに念願の桜花様の中に……！
これで存分に溜めた精液をつ……！
あああああああつ！イックウウツ！」

ホ

アッ
オッ

はち切れ寸前の伊緒奈は一瞬で絶頂して
射精を開始する。その途端、彼女のペニスは
長さを代償に猛烈な勢いで太くなる。

それは尋常ではない量の精液を放出する
ための当然とも言える変化。

米

常識的に考えれば無茶なプレイ。

だが、桜花の非常識ボデーは快感しかない。ひたすらに快感しか生じないことに桜花は動揺するがそれもまた一瞬で快感で飛ぶ。

「イッグウウウウー……ッッ！」

真里菜の射精と伊緒奈の極太化が先端まで到達したのは同時、膨大な量の精液が桜花のべニス内に炸裂する。





真里菜のペニスは自身の爆射の反動と伊緒奈の
精液による押し流して外へと追い出されていく。

まだマッスル系としては発展途中な真里菜だが
その剛直は宙吊りの体を支えるには充分。
射精を強めながらどんどん後退していく。

二人係で阿保みたいに注がれていく精液。

「ああああああああああああああつー！
か、勝手にどんどん射精しちゃうっつー！
おほおほおほおほあひやああああああつー！
出ひゅぎいひゅぎいひゅぎいっー！」

すでに射精中だった桜花は伊緒奈と真里菜の過剰補強
で最大放出射精を強制持続していく。
本来ならチャージングして到達できる放出快感を瞬時
に永続的に獲得させてられている。

「おほおほおほおほおほおほおほおほおほおつー！
ちよっ：」おほおほおほおほおほおほおほおほおつー！
止めへえひいほああああああああああああつー！」

真里菜のペニスが抜けていくほど伊緒奈のペニスは
太くなっていく。溜まりに溜まった精液を放出す
るにはこの程度ではまだまだ足りない。

「ああああああああああんっ!!
どんどんペースが上がっていきますからねえ♪
桜花様あ……いっばい出してえっ……♪」

すでに伊緒奈自身でも制御不能の射精。
桜花が伊緒奈に応えられる限り勢いも量も止まらない。

デタラメボディ同士の装填射精は始まったばかり。
本番は「ここから……!!」

最長勃起
13m72cm

太さは射精量で変化。
ただし太くなるほど長さは短くなっていく。









